



第65期 決算のご報告

平成28年8月21日～平成29年8月20日



本社・工場



 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地
TEL(076)267-5111(代) FAX(076)267-8065
URL <http://www.fuku.co.jp/>

福島印刷株式会社

証券コード 7870

株主のみなさまへ



代表取締役社長 **下島 真** 希 太

ICTの急速な展開のエッジにおける
「メーリングサービス提案業態」を追求しています
そのために挑戦するマインドを大切にいたします
そして信頼の蓄積に努めてまいります

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第65期(平成28年8月21日から平成29年8月20日まで)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、政府の経済政策および日銀の金融緩和策等により、企業収益や雇用環境が改善するなど、景気は緩やかな回復基調で推移してまいりましたが、

海外の政治動向などを背景に、依然として先行き不透明な状況が続いております。

印刷業界におきましては、Web化等による印刷需要の減少、競争激化による受注価格下落の影響を受け、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は引き続き最新鋭の印刷機等設備導入により生産体制の強化を図るとともに、DP(データプリント)

サービスの製品開発やサービスの充実、販売マネジメントの強化による創注や原価構造改善に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当事業年度の売上高は前事業年度を2億91百万円(4.4%)上回る68億88百万円となりました。また、利益面においては、営業利益が4億11百万円(前事業年度比20.3%増)、経常利益が4億16百万円(前事業年度比20.0%増)、当期純利益が2億98百万円(前事業年度比85.9%増)となりました。

今後の見通しにつきましては、わが国経済は景気の回復基調が続き、個人消費が持ち直すことが期待されますが、海外の政治動向などを背景に、景気の先行きは予断を許しません。

印刷業界におきましても、Web化等による印刷需要の減少傾向が継続しており、価格競争の激化や原材料の値上げも懸念されるなど、引き続き取り巻く環境は厳しいものと予想されます。

このような状況を踏まえ、当社としては、引き続き最新鋭の印刷機等設備導入により生産体制の強化を図るとともに、昨年2月稼働を開始した「さいたまサテライト」の有効活用や、独自技術によるDP(データプリント)を中心としたサービスを強化し、さらなる差別化を推進してまいります。当社サー

ビスの充実・拡大のための技術開発とその市場創造に注力し、顧客のBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)ニーズのさらなる取り込みを目指します。受注のベースとなる品質保証と情報セキュリティ体制についても、より一層の強化を図ってまいります。

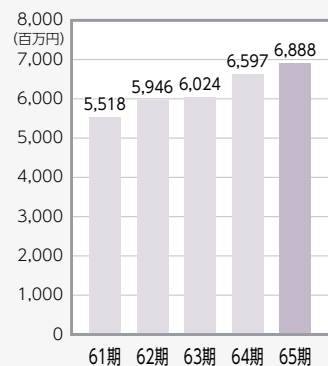
営業部門では引き続き大都市圏での販売力強化とともに、強力な商品サービスの創造、販売マネジメントと顧客管理技術の高度化に取り組みます。

設計部門では、生産前部門の生産性向上を図ると同時に、より一層のコストダウンと顧客サービス向上のための情報設計力、運用力強化の取り組みを継続いたします。

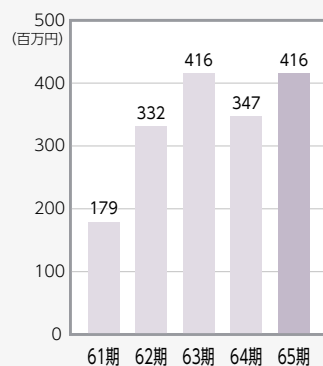
また、人材育成が重要課題の一つであるとの認識に基づき、メーリングサービスの拡大に不可欠なIT系知識を蓄えるための資格取得支援制度を全社展開するなど、市場の要求に応える人材の育成に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

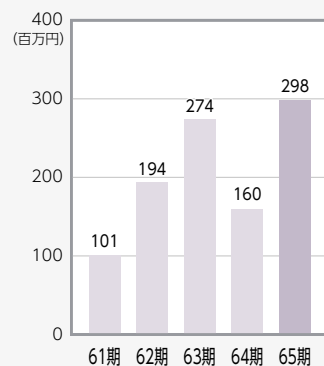
■売上高



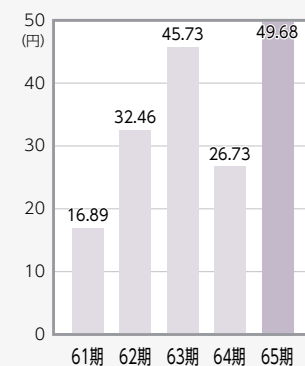
■経常利益



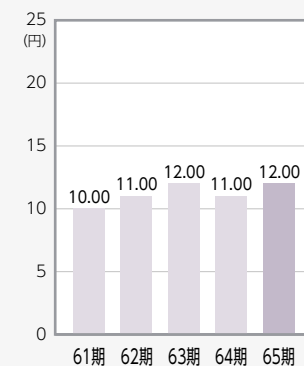
■当期純利益



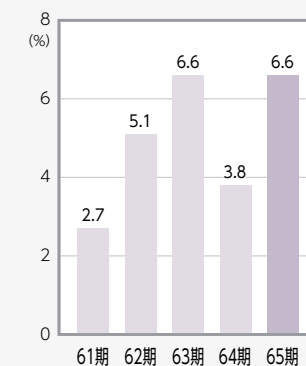
■1株当たり当期純利益



■1株当たり配当金

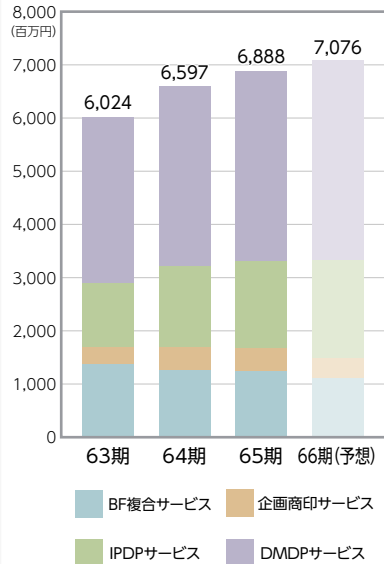


■自己資本利益率(ROE)



製品分野別売上高

製品分野別売上高



福島印刷の

新4分野による複合サービスの実現

当社は情報発信のパートナーとして、「コミュニケーション エイジェント」という新しいビジネスモデルを目指しています。お客様の情報発信は多様で、その手段、ツールにも様々な選択肢があります。そこからお客様視点に立ち多様な可能性を求めて、4つのサービス形態を整備拡張しています。

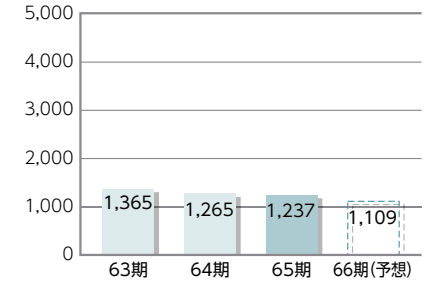
BF(ビジネスフォーム)複合サービス

- コンピュータ用帳票
- 一般帳票
- シール・ラベル など



BF複合サービスは、コンピュータ用帳票に代表される機械加工を伴った帳票印刷分野です。Web化に伴うペーパーレス化が進み、市場全体での需要量の減少傾向が続いていることから、売上高は前事業年度を28百万円(2.2%)下回る12億37百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



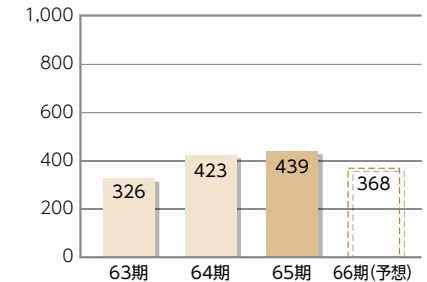
企画商印サービス

- 広告宣伝用印刷
- ディスクロージャー関連印刷
- マニュアル印刷 など



企画商印サービスは、パンフレットやカタログに代表されるビジュアル印刷物の分野です。企業の経費抑制が継続するなか、同業者間での価格競争が激しさを増すなど厳しい受注環境が続いておりますが、流通業界を中心に大型キャンペーン関連企画商材の受注が好調に推移、売上高は前事業年度を15百万円(3.7%)上回る4億39百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



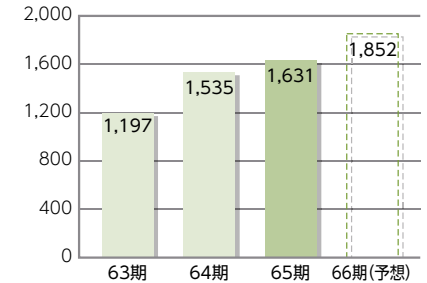
IPDP (インフォメーションプロセッシング データプリント) サービス

- 請求書等発行処理受託
- 各種行政サービス印字処理
- 各種通知案内印字処理受託 など



IPDPサービスは、企業が定期的な発送する請求書や官公庁が住民に発送する各種通知書など、事務通知書類のデータプリントから、封入封緘などの後処理、メール発送までを代行するサービス分野です。地方自治体や金融機関に加え、SIer、一般企業からの受注が順調に推移し、売上高は前事業年度を95百万円(6.2%)上回る16億31百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



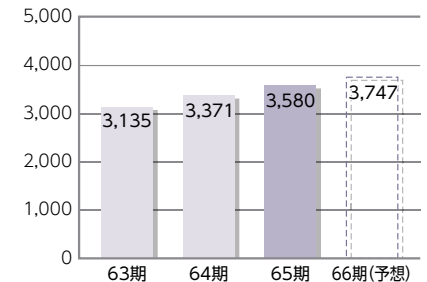
DMDP (ダイレクトメール データプリント) サービス

- ダイレクトメール
- ダイレクトメール処理受託
- データベースオンデマンド印刷 など



DMDPサービスは、お客様の顧客データベースが進化するなかで、有力な販促物を提供するサービス分野として発展しました。IPDPサービス同様徹底したセキュリティ環境のもと、お客様目線での企画提案により大口顧客でのポジションアップが進み、売上高は前事業年度を2億8百万円(6.2%)上回る35億80百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



当社「ならでは」の取り組み

新設備導入による主力サービスの拡大

■ 「もっと軽量DMを使っていたらこう」を合言葉に



順調に成長を続けるDM分野、中でも主力製品である軽量DMのさらなる受注拡大に向け、「もっと軽量DMを使っていたらこう」を合言葉に、生産量拡大のための設備投資検討を重ねた結果、当社主力機である高速8色輪転印刷機「BB36」の増設を決定し、2017年6月に試験生産を開始いたしました。

最新型BB36増設により、1日の最大生産量が従来の1.3倍以上となり、年々増加する需要において要求納期にお応えできる体制を強化しました。



LED仕様のUV硬化システム

インキ乾燥のためのUV硬化システムにLED-UVを採用したことで、従来機と比較しトータルコストは年間約100万円削減、また電力使用量は半減以下となり、原価改善はもちろん、CO2排出量低減で環境にもやさしい仕様となっております。

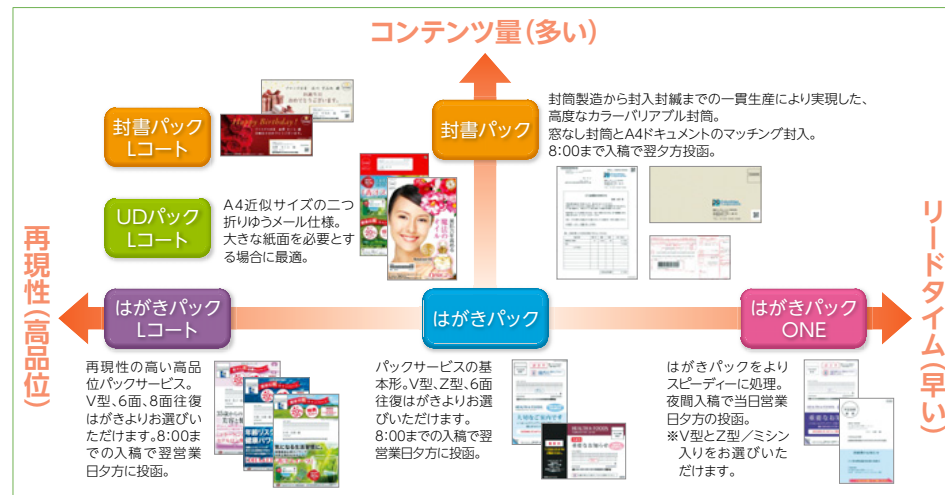
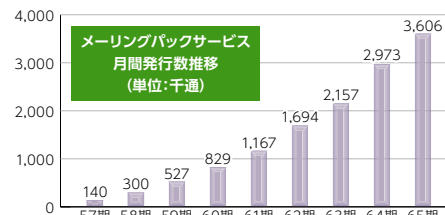
■ フレキシブルな生産体制でIP分野体制強化も

従来のBB36は24時間体制稼働でDM製品の約2/3の生産量を担っており、2台目導入を果たした今はお客様への供給責任を無理なく果たせる体制となり、BCP(事業継続計画)の対策強化にもつながりました。将来的には新型BB36でも24時間稼働による生産キャパシティ拡大により、DM専用に使用している設備へBF・IP分野の生産投入が可能となります。そうすることでBF専用の旧型設備の整理が進み、そこから確保できる人やスペースといったリソースを、成長を続けるIP分野への投資につなげる生産体制強化も計画しております。

メーリングサービスの拡大

■ メーリングパックサービスの成長とプラットフォーム化

メーリングパックサービスは、当社独自のデジタル処理技術により「はがき」「封書」「大判」の仕様で複数企画・複数会社の通知物を取りまとめ、パックとして印刷・加工する当社ならではのサービスです。当事業年度65期の月間発行数は平均360万通と、主力サービスとして順調に成長しております。バリエーションを取り揃えたパックサービスはプラットフォーム化を進め、お客様のフレキシブルな業務要件に対応したサービスを標準化して提供しています。



メーリングパックサービスのプラットフォーム化

新設備導入、その後... 加工機にモノクロ印字をインライン化 ハイブリッドMSL

● 加工業務をメインとしていた社員もデータプリント技術会得、セキュリティ面強化が進みました。



これまでデータプリントと加工を同一工程で行う部署は無く、運用設備は手探りからのスタートでしたが、問題点の整理、定期的な会議を重ね課題を一つひとつクリアしてきました。本格稼働から半年以上が経過し、新たな改善案が生まれるなどPDCAサイクルも回り始めました。大幅な生産性改善を期待できるハイブリッドMSL、効率的に設備を使用するために引き続き社員育成や体制強化を進め、シフトによる稼働時間拡大を目指します。

新設備導入、その後... 高速インサータ FusionX

● 目指すは『FusionXの使い手 日本一!』



FusionXの本格稼働から約1年が経過しました。メーカーにとっても新機種で経験も少なく不慣れな中、特注仕様の調整等も経て、最近では安定した稼働ができるようになり、今では生産スピードが飛躍的に向上し、常時完成品を運搬しないと室内が製品であふれてしまうほどです。大型封入案件の生産が集中する春～夏に向けて、自治体様徴税案件の取込が当面の課題です。営業活動では当該設備に合わせた仕様提案も進みました。これからシフト体制も整え更なる生産量拡大を目指します。

当社「ならでは」の取り組み

セキュリティ強化の取り組み

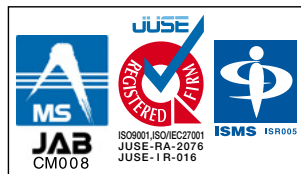
情報加工、情報発信のお手伝い業態としての責任を果たすために、継続的な努力の仕組みづくり、経営体制づくりの実現を目指しております。そうした中で「情報の機密性／情報の完全性／情報の可用性」について、お客様に信頼をいただく取り組みを心がけ、更なるセキュリティの強化を進めてまいりました。

■ 品質マネジメントシステム QMS(JIS Q 9001:2015)の認証取得

2017年、ISMS(情報セキュリティ)、Pマーク(個人情報・顧客情報保護)の継続取得に続き、新たにQMS(JIS Q 9001:2015)の認証を取得いたしました。

当社はお客様に「使っていただく」サービスの実現と顧客満足度の高い製品を目指しております。そうした取り組みの中で、2015年のISO9001改正により、ISOの規定範囲が「製品およびサービス」へと拡大し、当社の根幹であるサービスプロセスの経営方針と合致したことから、QMSの取得に至りました。

今後、QMSが定着することにより、ISOマネジメントシステムを活用したPDCAサイクルのさらなる強化、サービスプロセスリスクへの対応活性化等、お客様ともよりリスクを共有できる仕組みへとセキュリティの形を進化させてまいります。



■ 発送場・資材搬入口セキュリティ強化



高速シートシャッター

これまでの物流発送場・資材搬入口は日中開放されていることが多く、有人監視のもと、手動施錠で扉の開閉を行ってまいりましたが、お客様の製品が出入りを行う場所という点からセキュリティ向上を考え、扉の自動化と開閉規制、安全装置の設備導入をいたしました。資材搬入口では既存オーバースライダーの半自動化改造を行い、扉の開閉は社員のセキュリティカードのみで操作可能となりました。発送場では高速シートシャッターを導入し、リフトに乗車しながら業務を行えるよう、シャッターの開閉をハンズフリータグ(無線リモコンキー)で操作可能としました。これにより、搬入口と発送場の開閉キーの併用運用差異化によるセキュリティ面での強化、また、発送・搬入における業務の効率化をはかりました。両設備の安全装置としましては、屋外に赤外線センサーを設置することで動作感知時に扉の開放維持が可能となり、衝突等の労働災害の危険性を防止。情報セキュリティ設備の強化と定期的なリスクアセスメントの実施により、着実に強化改善を進めております。

人材育成の取り組み

データプリントサービスの成長を背景に、ITスキル強化を目指し2012年4月より開始した教育投資制度は、ベース資格と定めた「ITパスポート試験」の社員合格者は182名を超え、さらにITパスポートを除く各種情報処理試験では、高度情報処理技術者試験合格者27名をはじめ、のべ100名の合格者を輩出しております(2017年8月時点)。また、通販業界について広く学び、販売やものづくりに活かすことを目的とした「通販エキスパート検定」、そして「ビジネス実務法務検定」「日商簿記検定」といった幅広い専門知識を身につけた合格者も増加しております。

■ 合格者の声(プロジェクトマネージャ試験／ビジネス実務法務検定)

プロジェクトマネージャ試験 合格
基盤運用部情報システム課 高橋 佳之



一日ごろどのような業務をしていますか？

社内もしくはお客様に提供するサービスに関わるシステム構築をしています。インフラからアプリケーションまで、システム導入に関わるほぼすべての工程に関わる業務です。

なぜこの試験にチャレンジしましたか？

近年の業務では、複数のシステムを組み合わせるサービスを構築したり、外部ベンダや社内の関係者が多岐にわたる等、プロジェクトが複雑化してきました。プロジェクトマネージャ試験は、日本のシステム開発における標準的な知識・スキルが扱われており、勉強することで現在の業務をスムーズに遂行できる能力を得られると思ったためです。

学習したことを、今後どのように活用したいですか？

今後進めるプロジェクトの中で、できるだけプロジェクトマネージャに沿った進め方をし、自部署のシステム導入スキルのレベルアップ・標準化につなげたいと考えています。

ビジネス実務法務検定2級 合格
サービスリスク管理オフィス品質保証室 伊藤 亜希子



一日ごろどのような業務をしていますか？

当社が取得している、ISO(27001、9001)、プライバシーマークといった認証の事務局業務や、工場視察のご案内を行っています。

なぜこの試験にチャレンジしましたか？

部署の役割として、福島印刷の「売れるサービス」を理解し、改善支援していく上で、その法務リスクを把握しておく必要を感じたためです。幅広い業種のお客様とお仕事をしている当社にとって、お客様がそれぞれの業界で遵守している法律を横断的に学習できる点がこの資格の魅力だと感じ、チャレンジしました。

学習してプラスになったことや新たな気づきはありましたか？

工場視察などで、お客様が当たり前口にされる法律名や法改正に関する話題が、少しずつ理解できるようになったことです。より有効な情報発信ができるよう、継続的にアンテナを張り、今後の仕事にも活かしていきたいと思っております。

財務諸表

貸借対照表

科目	単位:千円	
	当事業年度 (平成29年8月20日)	前事業年度 (平成28年8月20日)
[資産の部]		
流動資産	2,472,272	2,518,360
現金及び預金	517,170	749,439
受取手形	195,009	215,935
電子記録債権	308,199	222,720
売掛金	1,035,137	943,323
製品	53,496	60,417
半製品	32,588	30,612
仕掛品	93,719	85,108
原材料	58,155	69,932
貯蔵品	7,861	7,303
繰延税金資産	84,271	69,436
その他	86,735	64,344
貸倒引当金	△ 74	△ 214
固定資産	4,717,608	4,193,432
有形固定資産	4,368,094	3,871,910
建物	1,244,695	1,304,046
構築物	14,399	15,514
機械及び装置	1,070,713	673,452
車輜運搬具	2,348	2,917
工具器具備品	182,346	135,048
土地	965,106	965,106
リース資産	607,906	676,825
建設仮勘定	280,578	99,000
無形固定資産	111,918	134,505
ソフトウェア	99,833	113,360
リース資産	7,667	16,726
その他	4,417	4,417
投資その他の資産	237,595	187,016
投資有価証券	148,413	87,513
出資金	3,670	3,670
破産・更生債権等	700	700
繰延税金資産	51,005	61,120
その他	34,505	34,712
貸倒引当金	△ 700	△ 700
資産合計	7,189,880	6,711,793

科目	単位:千円	
	当事業年度 (平成29年8月20日)	前事業年度 (平成28年8月20日)
[負債の部]		
流動負債	1,808,487	1,701,789
買掛金	304,406	221,443
短期借入金	670,000	570,000
1年内返済予定の長期借入金	28,350	29,400
リース債務	184,333	227,972
未払金	181,626	210,196
未払費用	263,729	243,724
未払法人税等	64,187	99,494
賞与引当金	95,627	89,172
預り金	434	785
役員賞与引当金	15,700	9,600
その他	92	—
固定負債	894,911	796,832
長期借入金	200,000	28,350
リース債務	486,902	524,165
退職給付引当金	118,831	117,880
長期未払金	89,177	126,436
負債合計	2,703,398	2,498,621
[純資産の部]		
株主資本	4,426,556	4,194,472
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
資本準備金	285,200	285,200
利益剰余金	3,681,469	3,449,385
利益準備金	96,200	96,200
その他利益剰余金	3,585,269	3,353,185
固定資産圧縮積立金	200,999	200,999
別途積立金	2,505,000	2,505,000
繰越利益剰余金	879,269	647,185
自己株式	△ 112	△ 112
評価・換算差額等	59,925	18,699
その他有価証券評価差額金	59,925	18,699
純資産合計	4,486,481	4,213,172
負債及び純資産合計	7,189,880	6,711,793

(記載金額は千円未満切捨)

損益計算書

科目	単位:千円	
	当事業年度 (自平成28年8月21日 至平成29年8月20日)	前事業年度 (自平成27年8月21日 至平成28年8月20日)
売上高	6,888,607	6,597,117
売上原価	5,104,107	4,855,416
売上総利益	1,784,500	1,741,701
販売費及び一般管理費	1,372,970	1,399,685
営業利益	411,529	342,015
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,350	2,177
作業くず売却益	14,056	14,298
その他の	4,839	5,722
営業外費用		
支払利息	16,119	17,067
経常利益	416,656	347,145
特別利益		
固定資産売却益	317	350
投資有価証券売却益	1,362	—
特別損失		
固定資産除却損	8,724	2,012
投資有価証券評価損	—	2,377
退職給付制度改定損	—	103,441
退職給付制度改定損	8,724	107,831
税引前当期純利益	409,612	239,664
法人税、住民税及び事業税	121,000	154,800
法人税等調整額	△ 9,467	△ 75,507
当期純利益	298,079	160,371

(記載金額は千円未満切捨)

財務諸表

株主資本等変動計算書

(平成28年8月21日～平成29年8月20日)

単位:千円

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金							
				固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
平成28年8月21日残高	460,000	285,200	96,200	200,999	2,505,000	647,185	△ 112	4,194,472	18,699	18,699	4,213,172
事業年度中の変動額								-			-
剰余金の配当						△ 65,995		△ 65,995			△ 65,995
当期純利益						298,079		298,079			298,079
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額								-			-
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)								-	41,225	41,225	41,225
事業年度中の変動額合計						232,083		232,083	41,225	41,225	273,309
平成29年8月20日残高	460,000	285,200	96,200	200,999	2,505,000	879,269	△ 112	4,426,556	59,925	59,925	4,486,481

(記載金額は千円未満切捨)

キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	当事業年度 (自平成28年8月21日 至平成29年8月20日)	前事業年度 (自平成27年8月21日 至平成28年8月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	860,209	832,760
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,059,003	△ 525,121
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 31,874	△ 358,842
現金及び現金同等物の増減額	△ 230,668	△ 51,203
現金及び現金同等物の期首残高	656,439	707,643
現金及び現金同等物の期末残高	425,770	656,439

(記載金額は千円未満切捨)

株式の情報

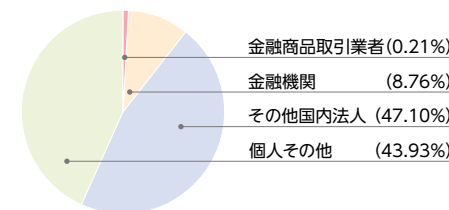
株式の状況

- ①発行可能株式総数 24,000,000株
- ②発行済株式の総数 6,000,000株
- ③株主数 1,978名
- ④大株主

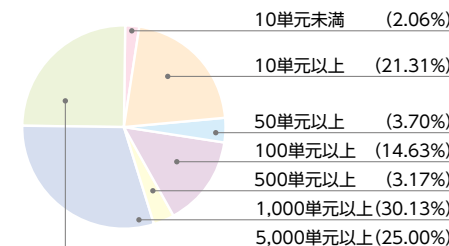
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	出資比率(%)
株式会社アジリスト	1,500	25.00
名古屋中小企業投資育成株式会社	473	7.89
北国総合リース株式会社	304	5.07
福島印刷従業員持株会	281	4.69
株式会社北国銀行	280	4.67
福島島茂	239	3.99
山崎久子	120	2.00
三菱製紙販売株式会社	110	1.83
株式会社グライクコーポレーション	80	1.33
三井住友信託銀行株式会社	60	1.00

株式の分布状況

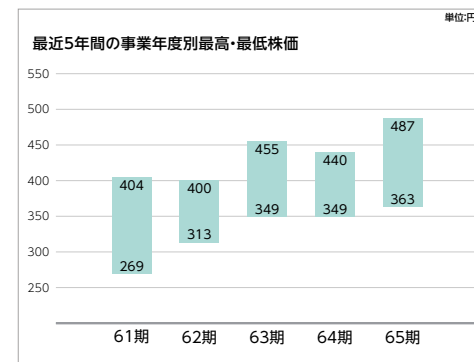
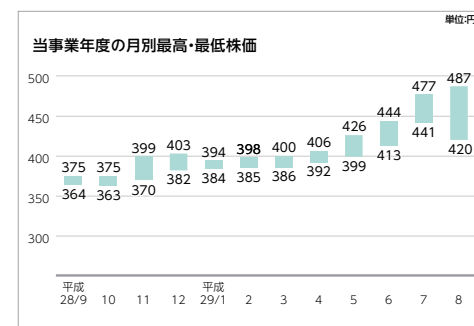
所有者別(株式数比率)



所有単元数別(株式数比率)



株価の推移



(注)名古屋証券取引所における高値・安値を表示しております。当事業年度の月別最高・最低株価は、毎月1日より月末のものであります。

会社情報



(左より) 山崎、松井、下畠、福島、松谷、館、岩木

役員 (平成29年11月16日現在)

代表取締役会長	福島 理夫	常勤監査役	館 芳昭
代表取締役社長	下畠 学	監査役	岩木 弘勝
常務取締役	松谷 裕	監査役	山崎 修二
取締役	松井 睦		

会社の概要 (平成29年11月16日現在)

商号	福島印刷株式会社
英文名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111(代)
設立	昭和27年9月10日
資本金	4億6,000万円
従業員数	409名
事業所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都千代田区鍛冶町1丁目5番7号 江原ビルディング9F 西日本営業部 大阪市淀川区宮原5丁目1番28号 新大阪八千代ビル別館8F 富山営業所 富山市上袋708番地1 福井営業所 福井市和田東2丁目1718番地 さいたまサテライト さいたま市桜区町谷1-4-1 株式会社廣済堂さいたま工場内

株式についてのご案内

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで
 定時株主総会 11月
 基準日 定時株主総会 8月20日
 期末配当 8月20日
 中間配当 2月20日
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株
 上場証券取引所 名古屋証券取引所
 公告方法 電子公告により当社ホームページ (<http://www.fuku.co.jp/>) に掲載いたします。
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。
 株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

平成29年11月発送予定



金沢五郎島時



四十萬谷 特選詰合せ



まつや とり野菜みそ



「不室屋」
ふやしき御汁セット



ざぶん賞へ寄付